

中心市街地拠点施設整備基本計画策定委員会  
第2回図書館専門部会 会議録

■日時：平成29年1月19日（木）午後6：00～午後8：00

■場所：四日市市役所 9階 教育委員会室

■出席者：

伊藤美香委員、岡田博子委員、中井孝幸委員、福永智子委員、葛西文雄委員

■議事：

- 1 中心市街地拠点施設整備基本計画における新図書館について
- 2 その他

■内容

- 1 中心市街地拠点施設整備基本計画における新図書館について  
資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

葛西委員

- ・今のご説明に関してご質問等はないか。

B委員

- ・レファレンスのカウンターについてはどのような配置になるのか。

事務局

- ・具体的な設備の配置については、設計段階で検討することになるため本日はお示ししていない。現在は本の貸出とレファレンスのカウンターが一緒になっているため、利用者のみなさんはカウンターに並行して一列に並ぶことがよくあるので、新しい施設では、レファレンスは貸出・返却とはカウンターを別にし、各階に司書を配置してカウンターを設けたいと思っている。

A委員

- ・現在の図書館は横の移動になるのに対し、新しい施設だと縦の移動になり、エレベーターやエスカレーターを設置し、吹抜けなどをつくるという意見もあったかと思うが、その点は今回の資料に書かれていない。

事務局

- ・現図書館では閲覧スペースは1階と2階にあり、しかも2階は吹抜けで東西に分断されている。前回の専門部会では、「新しい施設では吹抜けがあって子どもが見えるように」、「エレベーターは子どもに目が届かないのでエスカレーターを」というような意見もあったかと思うので、それを踏まえて検討してきた。その結果、現在設定した建築面積が約1,800㎡で、この中で吹抜けを設けようとするとなりの床面積で開架スペースを広くとることが難しくなる。そのため、ワンフロアの床面積を最大にとって開架と閲覧スペースを広くとりたいという考えから、吹抜けについてはここでは触れなかった。
- ・もう一つ、子どもと成人のスペースを同じフロアにするというご意見も前回あったが、この場合はそれぞれのスペースで縦方向の移動が生じるため、子ども、成人を分けてそれぞれをワンフロアで最大限に広くとる考え方とした。現在の図書館では児童室が280㎡程度だが、新しい施設では子ども子育てのスペースとして1,800㎡近くとることができ、それを新しい図書館の強みとしていきたい。

#### 葛西委員

- ・今の事務局の説明を要約すると、ワンフロア約1,800㎡という限られたスペースの中で、開架スペースを最大限に設け、閲覧席についてはゆったりとしたスペースにしたいという考え方を示したと思う。ワンフロアの広さが限られているので、前回ご意見があったような子どものスペースと成人のスペースと2つ機能をワンフロアに持たせてしまうと使い勝手が悪くなるため、子ども子育てのエリアだけでワンフロアを確保して四日市の特徴にしたいという考えだと思う。

#### D委員

- ・開架スペースがたくさんあって使いやすくなるのが最優先で、さらにゆったりした閲覧スペースというのはよいと思う。

#### B委員

- ・施設全体の1階部分に図書館のデジタル看板を設置すると書いてあるが、この部分はどのような空間になるのか。1階部分は吹抜けにして空間を豊かにしてもらいたい。一方、上の階の図書館はシンプルで使いやすく、開架と閲覧スペースを充実させればよいと思う。私達もアイデアを考えるので、楽しい空間にしてもらいたい。

#### A委員

- ・資料を拝見すると、何でもないことを難しく書いていたり、難しいことを簡潔に書いていたりしており、優先順位を示していただけるとよい。例えば開館時間は重要ではなく、一方で駐車場などはしっかり議論した方がよいと思う。

#### C委員

- ・資料を事前に拝見した時に、第一印象としてとっつきにくかった。その理由は様々なことがパラレル（並行）に書かれているからだと思う。前回もお話しさせていただいたが、新しい中央図書館の整備を機として市全体の図書館のネットワークも検討して、その中での中央図書館の位置づけが重要だと思う。本日は各論になりすぎていて、まず大目標を立てた方がよいと思う。例えば拠点施設全体のあり方、新図書館のあり方など。四日市の歴史、やきものや港などを大切にしているのは当然だと思うが、新しい図書館をつくっていく時にそういったことをさらにアピールできるように書き込むべきである。
- ・拠点施設全体で議論をする話かもしれないが、もう少しいろんな活動をサポートする視点があってもよいと思う。読み聞かせなど図書館のボランティアサークルの打合せスペースなどがあるだろうし、いろんな市民の活動をサポートする場所、ワークショップをする場所があってもよい。
- ・もう一つ大事なのが、エリア同士のつながりを考えていく視点である。先程の話を聞いていて、ワンフロア1,800㎡というスペースがあって、それを何層も重ねればよい施設ができるかというところではないと思う。機能同士、エリア同士のつながりをもう少し考えるべき。文言で「エリア同士のつながりを考えていこう」と一言書かれていればよく、設計段階で吹抜けが計画されてもいいし、吹抜けがない計画でもいいと思う。1,800㎡は、大きくもあり小さくもある広さだと思う。細かい点を言うと、二層で1つのまとまりという考え方もあって、ワンフロア1,800㎡を丸々二層にするのではなく、その一部を使って計2,500㎡程度で二層とすれば、防火区画がいらなくなるというメリットがあると思う。とにかく「エリア同士のつながりを大切に」という一言を書いておくと、あとは設計者がいいアイデアを出してくれるだろうと思う。

#### 葛西委員

- ・今のご意見は、資料のどのあたりで書いたらよいか。

#### C委員

- ・資料の1「機能別エリアに関して」か資料2「スペースに関して」あたりだと思う。

#### 葛西委員

- ・「四日市の歴史、文化、産業面などについてしっかりアピールできるものを」というご意見が出たのは、機能別エリアに関しての中で「郷土資料」という程度でしか書かれていないからだと思う。

#### 事務局

- ・拠点施設全体では、地域資源を情報発信する機能を設けることになっており、そこで担う役割と図書館内で担う役割を整理しておくと思う。市民や市外からの来訪者に広く情報発信するものはシティブロモーションの拠点となる情報発信機能の方が担い、郷土資料の他にも充実させるべきものがあればそれを含めて図書館で担えばよいと思う。他にも市民活動の場やワークショップスペースも多世代交流機能・ワークショップスペース機能の方で担うことになる。図書館で担うもの、複合拠点の方に頼るものを分けて考えるとよいと思う。

#### C委員

- ・今出されたものは図書館にとっても必要な機能であり、図書館の議論をする時にも今の点は書いておくべきで、この機能は拠点施設の方で担うという振り分けができるとよい。資料の中で欠落しているのはよくないと思う。

#### B委員

- ・郷土資料については、展示だけでなく保存していくという大事な役割もある。

#### 事務局

- ・ここでは新図書館の基本方針を拠点施設の基本計画の中に盛り込むことを目標に議論をしていただいている。それは新図書館の事業の方針、背骨になる部分で、前回お示した「みんなの生涯学習の場」「子どもの読書環境づくりの場」という2点を基本的な方向として、これをベースに拠点施設の整備にあたっての具体的な内容を議論していただいている。このため「図書館の事業方針」と「新施設の整備にあたって」の2つの構成で基本計画に盛り込むことを考えている。
- ・豊富な地域資源の活用については、他の図書館で収集しないようなものを収集、保存し、市民のみなさんにも見てもらうことを考えている。また、つながりについては、図書館内のつながりとともに施設全体のつながりも重要である。活動の場については、図書館内で必要なのはボランティア室、練習室などがあり、その他の活動の場やワークショップの場は拠点施設全体で考えるなど使い分けていきたい。

#### 葛西委員

- ・図書館内のつながり、複合施設全体のつながりなどを検討していく中で、この機能だけは図書館内に入れておくべきというものはないか。

#### B委員

- ・細かく言い出すとロッカーなどがあるとよいが、そういう発言をしてもいいのか。

#### 事務局

- ・基本計画の中で反映するものと設計の段階で反映するものといろいろあると思うが、それには捉われずご意見をいただければよいと思う。

#### B委員

- ・私達の活動の話をする、読み聞かせの会をする時に沢山の道具を持ってくるため、それらを置かせてもらうスペースがあるとよい。ロッカーがあるとよいと申し上げたのはそのためである。

#### 事務局

- ・資料ではボランティア室と書かれているが、ロッカーや共同の打合せスペースは図書館内に確保したい。特に、私ども図書館の活動と協力して実施していただける団体であるため、これらの団体のみなさんの活動の場所は図書館内に設けたいと考えている。

#### A委員

- ・書庫について、現図書館は一か所に固まっていると思うが、新しい施設になると図書館のフロアが縦に複数階に分かれるので、書庫も複数階に分かれるのか。どのようなスタイルが司書さんは使い勝手がいいのか。

#### 事務局

- ・現図書館では、2階に3層にして閉架書庫としている。1階で資料請求があると2階の閉架書庫にあがって探している。今回の新しい施設では各フロアに書庫を設けるかどうかなど、職員の動線からよく考えるべきだと思う。閉架書庫を自動化すれば、取出し口だけ複数階におき、書庫をまとめることができる。児童向けの資料については、子ども子育てコーナーに併設して閉架書庫を置くという考え方もあると思う。

#### B委員

- ・自動書庫は、トラブルはないのか。またメンテナンス費用が高いとかいうのはないのか。

#### 事務局

- ・「トラブルがない」ということはない。またメンテナンス費用は、最終的には人件費との兼ね合いの中で決まってくると思う。

#### A委員

- ・現在カウンターにいる司書さん達は、時間の関係でこの場に来られないことはわかっているが、その人達の声をここで披露していただくことができないか。こういう設備があると書庫として使いやすいか、機能別エリアはどうすればよいかなど、司書さん達の想いはたくさんあると思う。

#### 事務局

- ・現在、図書館職員と司書とで、新しい施設づくりについて議論をしているところである。どんな部屋が必要で、部屋の内容をどうしたいのかについて意見を整理し、設計者に伝えていきたいと考えている。

#### 葛西委員

- ・図書館の職員が司書の意向などを吸い上げて、次回この場で披露してもらえればと思う。

#### D委員

- ・機能別エリアに関して、各エリアのつながりを検討していくべきという意見があったかと思うが、私が日頃関心をもつ子どもの読書の推進の観点から申し上げる。法律上は子どもの対象年齢は0～18歳としており、幼児から中高生を含む。中高生にも読書をしてもらう仕掛けが大事だと思う。つながりの具体的な私のイメージについて、愛知県日進市図書館の例がある。ここでは子どものエリアがあり、それと同じフロアに青少年のエリアがあり、その隣に小説が置かれた大人向けのエリアがある。中学生は、小学校向けの本でも読まない子もいれば大人が読むような小説を読む子など読書の力がまちまちである。マクドナルドで過ごすような中高生達に図書館に来てもらいたいと思う。大人のエリアにあるような新聞雑誌や小説などは、中高生コーナーへの通り道にあるとよい。

#### B委員

- ・子どものエリアに小さい子ども向けの本しかなくて、その他は大人向けの本しかないとならなると中高生が行く所がなくなってしまう心配がある。

#### D委員

- ・小さい子どものコーナーは書架が低く、小学生高学年向けのコーナーは少し書架が高くなる。それに連なるように中高生向けのコーナーを設けるというイメージであるが、とにかく、せつかく来てもらう中高生を逃さない仕掛けが必要だと思ふ。

#### 葛西委員

- ・次回はエリア、機能のつながりについての考え方を整理して議論をしていただくべきだと思ふ。その他のテーマについてご意見はないか。

#### B委員

- ・市民の方と話をすると、海が近くて津波が怖いという意見がある。危険があるのになぜ庁舎東側広場に建てるのかという意見があり、防災についてどのようにお考えか。

#### 事務局

- ・今の場所では計画するにあたって市議会の中でも、標高5mライン以上の上層階に避難できる場所を確保すべきという意見が出ていた。四日市の場合は2mくらいの津波が来ると予測されていて、市民のみなさんには標高5mラインより西側に逃げましょうというアナウンスをしている。標高5mラインというと中心市街地では博物館あたりから西側となる。それより東側の市街地は、鉄筋コンクリートなど堅固な建物の3階以上となる。新しい施設では、地震や津波で倒れない堅固な建物にした上で上層階を避難場所にすることが前提だと考えている。
- ・また、今の場所に限らず近鉄四日市駅とJR四日市駅に囲まれた中心市街地やその南北に広がる臨海部は標高5mより低い場所が広がっており、これまで長い間、歴史を重ねて形成されてきた本市の市街地である。その中心部を捨てるわけにはいかないので、何かあった時には西側へ逃げるか耐震性のある建物の上層階に逃げるという考えである。よってこの施設ができることによって、中心部の防災力が高まるものと考えている。

#### B委員

- ・前回の策定委員会の資料の中で1、2階を図書館以外のスペースにしてやや無駄に広いとも思われる配置をしていたのはそのためか。

#### 事務局

- ・1階部分はエントランスで、まつりやイベントの時に三滝通り側と一体的に利用できる、中と外と一体的に利用できる建物にすることを想定している。その他にも情報発信機能、カフェ機能も低層階に考えている。2階から上の内容については未定で、図書館についても3階以上と決まっているわけではない。

#### 葛西委員

- ・今回の資料で図書館内に専用エレベーターを設けるとか、前回はエスカレーターについての意見も出ていたが、移動についてのご意見はないか。

#### B委員

- ・車イスの方やベビーカーはエレベーターが必要だと思ふが、何か所かあればいいと思ふ。

## 事務局

- ・一宮の図書館を例に、図書館内にエレベーターを設けることで、車イスの方やベビーカーでも図書館外に出ずに移動できると思う。幼児が間違っ入らない工夫は必要だと思うが、シースルーのエレベーターにする方法がある。また、スペースを必要とするがエスカレーターについても検討できると思う。

## C委員

- ・エレベーターとエスカレーターの違いは人の輸送量にある。上層階にエスカレーターを設置するのはコスト高になるが、1階から図書館のあるメインフロアまではエスカレーターであげる。そこから上は階段かエレベーターであげれば良いと思う。エレベーターも数を増やすとコスト高になるので、不便にならない程度で図書館外に1基、図書館内に1基ずつあれば良いと思う。その他、職員用のエレベーターを考えるかという点もある。ここで重要なのは、そのような細かい検討ではなく、「バリアフリーやユニバーサルデザインへの配慮が必要」という点で、この程度のコメントでいいのではないかと。

## 葛西委員

- ・段々とイメージがわいてきたと思う。

## 事務局

- ・事務局の間で議論していた時には、図書館専用のエレベーターが必要だろうという話が出ていた。

## C委員

- ・図書館専用のエレベーターなどについては資料の中で触れてもいいと思う。とはいえ各階に **BDS** (ブックディテクションシステム、盗難防止ゲートのこと)を設置すると大変で、究極の話としては1階の出入口にだけ **BDS** を置くという方法もありうる。施設全体を図書館とすれば、図書館の外と中にエレベーター1基ずつということもなくなり、**BDS** を1階の出入口だけに設置するという考え方である。

## A委員

- ・中井先生、福永先生は国内外の図書館の事例をご存じだと思うので、移動の仕方参考になるものをご紹介いただけたらと思う。

## D委員

- ・先ほど話題に出た一宮の図書館は、エスカレーターで図書館フロアまで行ける。エレベーターだと待たされる場合があるが、エスカレーターだとすぐに上層階に行け、図書館のフロアに行けば図書館内に専用エレベーターで移動できる。

## C委員

- ・一宮での苦情は、地下駐車場に車を止めた場合にエレベーターしかなく、待たされることにある。エスカレーターは地上しかないため、駅からの利用はしやすいが、地下駐車場に車を止めた場合のアクセスに課題がある。図書館のフロアは5階にあるため、地上からはエスカレーターを乗り継いでアクセスする。児童向けのコーナーは図書館内の5階にある。ここでは子ども達だけで来るというケースは少なく、親御さん達とくる場合が多い。
- ・塩尻図書館は、図書館専用のエレベーターがなく、共用のエレベーターのみである。施設内が仕切られておらず風通しがよい。図書館は1階と2階と2層だけで、そこに **BDS** がある。

#### D委員

- ・BDS を設置すると、ブザーが鳴る時のことを考えて職員が張り付かなければならない。1 階エントランスの素晴らしい空間の所で BDS のブザーが大きく鳴ることを考えると気になる。カウンターの近くに BDS を設置するケースであれば、職員も対応しやすいと思う。

#### C委員

- ・複合施設であれば、総合案内やインフォメーションを 1 階エントランスに設置する場合があります、とにかく誰かスタッフがいればよいという考え方であれば、総合案内の近くに BDS を設置することも考えられる。

#### D委員

- ・図書館のスタッフ側からみれば、図書館側の不手際があってもいけないので、何かあった時にスタッフが対応できるようにとカウンターの近くにあればよいと思う。

#### C委員

- ・自動貸出のシステムも充実してきているので、必ずしもスタッフが張り付くということでもなくともいいと思う。
- ・ハードに関わると思うが、開架書架、閉架書庫、閲覧スペースとともにカウンターの考え方についても検討する必要があると思う。カウンターを置くと人が張り付かねばならず、カウンターはあるが人はなくて「御用の方はボタンを押してください」などとなっていると煩わしい。居るべきところにスタッフがいて、貸出や返却など利用者が自分でできるところは自動でやることもできるようにするなど、カウンターをどこに配置し、配置したそれぞれにどのような機能を持たせるかを考える必要がある。1 階と 2 階、3 階のカウンターの役割は違うと思う。通常のご案内業務は 1 階に集約し、相談業務はなるべく各階のカウンターに配置した方がよいと思う。

#### B委員

- ・相談を受けて資料があることを知って、書庫から本を出してくるという業務は必要だが、それもカウンター業務なのか。

#### C委員

- ・単に聞かれた本を貸すだけの業務と、他のおすすめの本も合わせて紹介するというのは業務の種類が違うと思う。これらを分けていくべきなのか、総合的な相談としてどのカウンターでも同じレベルで対応できるのか、いろいろ考え方はあると思う。

#### D委員

- ・貸出返却業務とレファレンスは業務の内容が違うので分けた方がいいと思う。さらに、延滞している人などが来ることも起こりうるし、そういった時に図書館側に不手際があってもいけない。個人的な考えとしては、各フロアにスタッフがいた方がいいと思っていて、スタッフがいないフロアがある図書館は想像できない。

#### 事務局

- ・盗難防止ゲートの例もあり、レファレンスカウンターや貸出返却カウンターの例もあるが、これこそ現場の司書の観点が必要だと思う。各分野には担当の司書がいつもいて相談したら本とつないでくれたり、特に青少年のコーナーには司書をつけてサポーターとともに新たな企画をすることなどが考えられ、単に本を書庫から出すだけでないスタッフとして司書を各エリアに配置できたらと思う。
- ・盗難防止用ゲートについてもいろんな考え方があると思うが、貸出カウンターの近くに置く事例が多いようで、雑誌コーナーなどを図書館外に置くケースもある。ゲートがない図書館では年に何千

冊がなくなるという話も聞いたことがある。いろんな事例があるため、司書にも他都市の事例を視察してもらい、今後図書館内の作り込みをするにあたって検討していければと思う。

#### 葛西委員

- ・その他、駐車場についてのご意見はないかうかがいたい。

#### B委員

- ・はもりあがある本町プラザ横の駐車場を取り壊すというのを聞いて心配になったことがある。市役所横の駐車場にある公用車を他にどかせるという話だったが、駐車場の経営は大丈夫なのか。現図書館では無料で駐車できるが、新しい施設では財政が厳しくなって図書館の利用者も駐車料金を負担しなくてはならなくなるのではないか。そこのところは大丈夫か。

#### 事務局

- ・はもりあ横のものはタワー式の立体駐車場で、構造的に車の出入りが不便で車高制限も低いので利用されていない。経費だけがかかってしまうので取り壊すことにした。
- ・駐車料金については、中心市街地内の民間駐車場も使うなどして2時間は無料にするというルールを当初決めたとしても、財政面の問題もあるし、公共交通を使ってアクセスする人が料金を負担している中で、新しい図書館利用者の駐車料は無料ということが将来に渡って担保ができるかどうかは何とも言えない。ただ、今も市営駐車場に止めて市役所に訪れる人は無料であり、駐車料金を有料化するのには駐車場がどんどん足らなくなっていく状況が起こってきた時に検討されるかもしれない。今のところ2~3時間などの一定時間は無料という提案をしていきたい。

#### A委員

- ・女性目線でいえば、くすの木パーキングは怖い。

#### 事務局

- ・くすの木パーキングが怖いという方にも対応するよう、周辺の民間駐車場も活用して2、3時間無料で利用できる券を配ることも検討していきたい。また、市営駐車場は平日で約160台分が利用できるが、平日に隣の総合会館で催しがある時などは一時的に数十台程並ぶというケースもある。それに図書館利用者が加わることになるため、そこをどのように解消するかを課題として捉えており、中央駐車場の公用車を他に移すことなどにより160台の枠を広げることも考えている。新図書館建設の目的の一つに中心市街地の活性化があり、周辺の民間駐車場に止めていただいて図書館に来た後には周辺で買い物をして帰ってもらおうということにつながってもよい。駐車場需要については策定委員会の方でお示ししていきたいと考えている。

#### C委員

- ・駐車場について計算をしてみた。人口一人当たり年間貸出冊数が8冊と想定し、土日のピーク時に300台程度必要と考えている。

#### 葛西委員

- ・現図書館での人口当たり貸出冊数はどのくらいか。

#### 事務局

- ・市立図書館だけで31万2千人を奉仕人口として考えた時に、人口当たりの年間貸出冊数は8冊には程遠く、3冊程度である。

#### C委員

- ・あさけプラザや楠交流会館も含んだ数値として、私が考える数値は人口一人当たり年間10冊が目

標である。その中で新図書館では8冊くらい受け持ってほしいと思う。

- ・以前、愛知県岡崎市図書館交流プラザがオープンした頃に調査したところ、土曜日1日の来館者数が約6,000人で駐車場の台数が約300台、3時間無料、9時開館で10時には並んでいた。新しい図書館の場合、1日で想像を超える人数が来る可能性がある。そのようなことがあるため、四日市での新図書館の場合は300台程度と考えた。その根拠を示すことは可能なので、事務局からお聞きいただければと思う。

#### 事務局

- ・今の中央駐車場では公用車、社会福祉協議会の車など定期契約をしている車がいろいろあり、災害時に出勤する緊急車両などは中央駐車場に止めておくべきだが、その他はくすの木パーキングに移動することも含めて検討する必要がある。

#### B委員

- ・図書館の職員の方も利用すると思う。

#### 事務局

- ・図書館の職員は基本的には公共交通を利用することとしている。

#### B委員

- ・公共交通を検討するなら、中心市街地のシャトルバスも検討してほしい。

#### C委員

- ・せっかく新しい図書館を検討する機会なので、市内図書館のネットワークについても検討したい。愛知県瀬戸市では、中学校の図書室に土日に司書が出向き、図書も学校のものと図書館のものと両方あり、市民も利用できるようにしている。

#### B委員

- ・私も関わっている図書館協議会では、市立図書館のことだけを議論しあさけプラザや楠交流会館のことは資料もいただけないし話題にも出ない。分館の位置付けなのかどうかはともかく、同じ市立図書館なので一緒に議論できるとよいと思う。

#### 葛西委員

- ・そのあたりは資料が整理されているはずなので、今後提供できればと思う。小中学校の関連でいえば、市内に現在60校ほどあり、民間会社に委託し、週に1回程度、司書を学校に派遣して本の管理や紹介などをしていただいている。四日市全体の小中学校の図書室の本は同じように管理され、他の学校の本を借りることもできる。また、図書館には「なのはな文庫」という学校貸出用の本があり、学校に回している。

#### D委員

- ・やはり図書館の理念が必要で、その中の1つである子どもの読書活動推進があって、その上で市立図書館のノウハウを学校へ分配するという考えに立つのかと思う。他にも議論が出てくるのかもしれないが、図書館の大きな理念の中でどのように活動するかを考える必要がある。
- ・今回は郷土資料が話題に出たが、これはまず集めることが重要である。名古屋市の図書館の場合、国会図書館にもないような郷土資料があるため、持ち出しや落書きなどされないよう荷物は全てロッカーにおいて利用する。他の図書館にないような資料の蓄積が重要だと思う。
- ・岐阜県多治見市の図書館はライブラリー・オブ・ザ・イヤー大賞を受賞した。やきものに関する資料を、まずその職業に就いている人を訪ねてどんな資料があるかを聞き、それを元に資料をさらに集めていった。「司書が足で稼いだ」というレアケースである。新図書館の計画の中には書かなく

でも、運用していく中でこのような活動をしていけばいいと思うが、蓄積していくことが大切だと思う。

#### A委員

- ・今日は傍聴人の人が既に帰ってしまっている。3か月で4人の委員で議論するには重い課題だと思うので、何とかならないか。

#### 事務局

- ・春頃から市民に聞いていく上で一定の内容を示さないとなかなか意見を頂けないので、その内容の作り込みをしていくためにこの場を設定させていただいている。さらに、市民の方の意見を踏まえたうえで設計をしていくための規模などの条件を詰め、議会に諮って次のステップに進むという予定で考えている。

#### A委員

- ・市民の意見をもらって議会で承認されたら、その内容で進んでいくのか。

#### 事務局

- ・順調にいけば、その次にはおそらく設計コンペなどをして選んでいく。ただし、今度の新しい市長は、図書館についてまだまだ議論が足りないという認識でいる。場合によっては、当初設定したスケジュールに捉われず、秋以降も市民意見を聞いていくことになるのかもしれない。

#### B委員

- ・設計コンペの土台になるものを決めていくと考えればよいのか。

#### 事務局

- ・それを決めるのは策定委員会の場である。例えば先ほどご意見いただいた「エリア同士のつながりを大切に」「1階に吹抜け」などという考え方を設定すれば、それをもとに設計者が提案してくることになる。

#### C委員

- ・新図書館では、今の図書館をベースとしてしっかりやるべきだが、それに加えて付加価値、魅力を付け足すことが必要だと思う。資料は少し硬い感じがする。

#### B委員

- ・前回までの議論はもう少し違っていたと思う。

#### 葛西委員

- ・これまでのように自由に意見をいただき、資料の内容を何度も叩いていいものにしていきたいと思う。

#### B委員

- ・前回の策定委員会で意見を申し上げて、図書館について自由に意見を言える専門部会を設けていただいたが、第3回委員会が終わった後はもうやらないのか。

#### 事務局

- ・事務局としては、専門部会を3回行い、その内容を踏まえて第3回策定委員会を行ったところでの専門部会は終わると考えていた。

#### C委員

- ・その後も継続して「図書館を考える会」として検討していけばいいと思う。

#### 葛西委員

- ・次回、今回よりはいい資料に仕立てていきたいと思う。

#### 2 その他

次回の日程は、平成29年3月8日とする。